

地獄ハイキング

M 温泉マイスターガイド・オリジナル!

北石垣ー中須賀コース
石をたどって別府の古代・古い道を歩く



お願いとご注意 歩くときは危険がつきもの

- 歩いて実感するのは危険がつきもの。特に地熱地帯は高温の場所です。足元には十分注意を。沸騰している場所もあります。
- 歩くときは足元の準備、水の準備、そして体調と心の準備を。
- 別府では、自然であっても持ち主のある場所がほとんどです。見学するときは、きちんとお願いしてください。



地獄ハイキング

北石垣－中須賀コース

石をたどって別府の古代・古い道を歩く



ハイキングの見所と目的

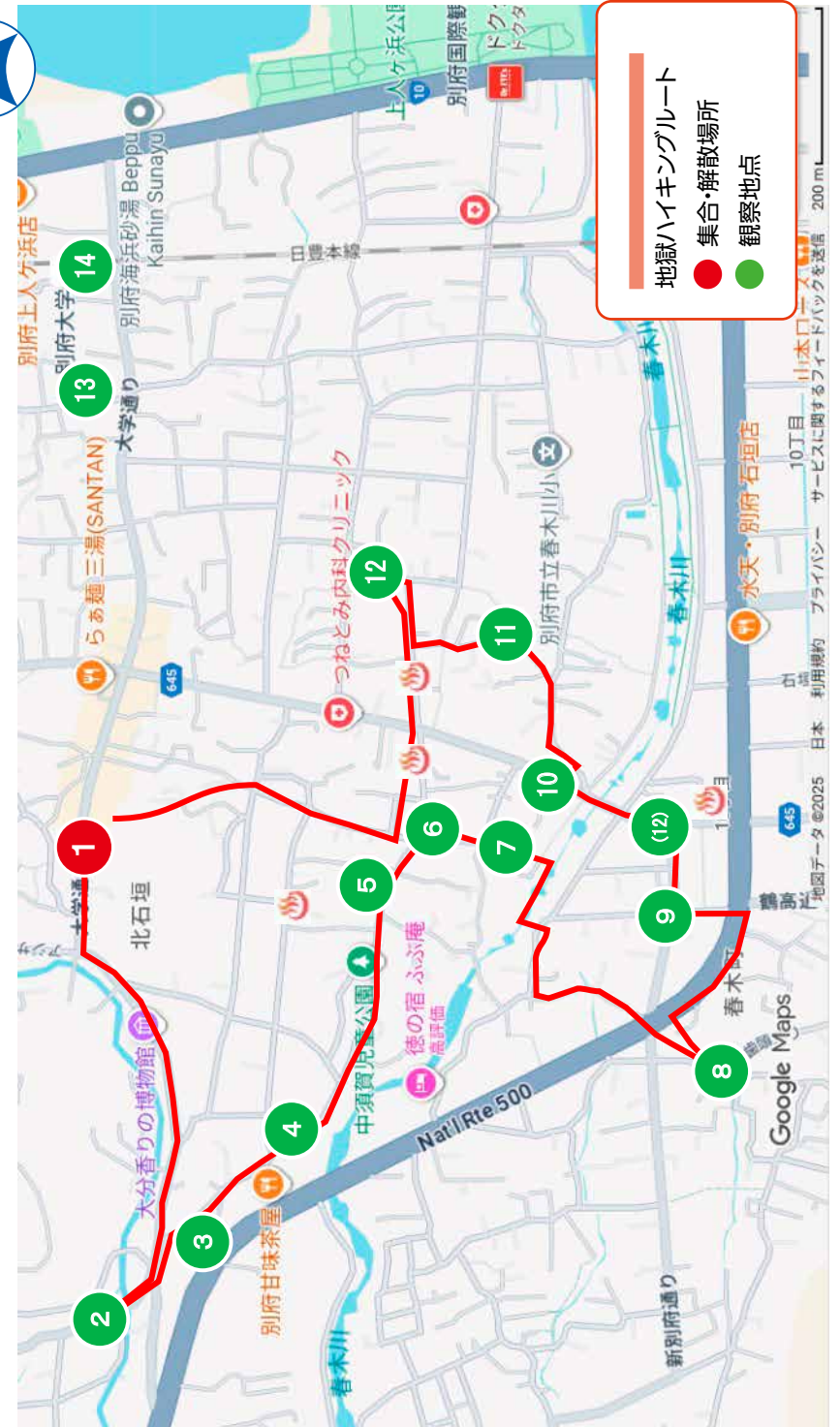


温泉マイスター 佐藤 由理

古墳時代、この周辺には地域を代表する古墳が造られました。律令の時代には、速水郡の拠点施設である「速水郡衙」が石垣八幡宮の位置あたりにあったと考えられています。このコースは、旧道の道標の大きな石を見ながら、古の豊前道（春木川を渡って実相寺へ）の石垣の道を歩きます。



ハイキングコース図



ハイキングコース

- Stop 1 ワクド石
- ↓
- Stop 2 湯の川温泉
- ↓
- Stop 3 大石
- ↓
- Stop 4 別府大学附属博物館
- ↓
- Stop 5 向の原地蔵尊
- ↓
- Stop 6 石垣八幡宮 第一の鳥居
- ↓
- Stop 7 別府石の石垣の道
- ↓
- Stop 8 実相寺古墳群
- ↓
- Stop 9 和菓子処「茶郎」水汲み場
- ↓
- Stop 10 曹源寺
- ↓
- Stop 11 石垣八幡宮井戸碑と石垣の道
- ↓
- Stop 12 石垣八幡宮

1 ワクド石



ワクドとは大分の方言で「蛙」の形に似ていることから言われるようになりました。自然石のままで人が整形した跡がみられない貴重な石とのこと。この地点は、市道・照波園平田川線との三叉路で、幕末までは豊前街道の「四辻」であったため道標として親しまれていました。

ワクド石は、鶴見山の方に向き、生みの親の山を望郷すると伝えられ、脳と長寿に霊験があるとのこと。

*わくわくとんぼテレビの動画で、2025年12月24日現在、この石の面白いお話が観れます。<https://community.ctb.ne.jp/feature/beppu/detail/8591>

2 湯の川温泉



北石垣には、「湯河原井堰」の左岸に「湯河原温泉」と言われる自噴泉があったとのことですが、この周辺で見つけられたのはこのみ。「湯河原温泉」についてご存じの方は教えてください。

「湯河原井堰」は、大石の下の照波園・平田川線の南側に沿った松本井路（今では排水路化）の水源で、大石の三叉路から平田川を200mほど上がった箇所にあるとのこと。

3 大石



バス停にも名前が残る「大石」は、旧道の道標であるとともに南鉄輪・平田・北石垣の3つの村の境界でもあります。街道はここから左折して春木川に向かい、浅瀬を渡ったとのこと。

大石の傍らに立っていた顕碑（現在はありません）は、当時交通の難所であった大石付近の道路の拡幅工事を行った加藤新平の功績を讃えたものとのこと。

4

別府大学付属博物館



別府大学附属博物館は、1954年に上代文化研究所の附属施設として歴史博物館の形で開設されました。当初から考古学調査を積極的に行い、旧石器・縄文・弥生時代を中心とした多くの資料を収集し、西日本を代表する考古博物館として発展してきました。1963年には史学科創設に伴い学芸員養成課程の実習施設となり、発掘・分類・実測などの作業を学生が担う教育の場としても機能しています。また、古文書や記録資料も多く保管され、地方史研究や学生の学習に活用されています。本館では九州の歴史を俯瞰する常設展示や特別展を行い、分館では大学の歴史資料を展示しています。

<https://www.beppu-u.ac.jp/research/institutions/museum/>より

5

向の原地蔵尊



ここには巡礼の修行僧や春木川の事故等で死亡した者や無縁者が埋葬されています。建立は、供養塔の刻銘や地藏尊前の道路造成が1790年頃と考えられることから1800年前後と考えられるとのこと。

『別府の古い道』には地名が書かれていませんが、以下の記載があります。このあたりのことかもしれません。「曹源寺裏の墓地から「大石」に至る途中の旧道沿いに、江戸時代に巡礼で廻遊したと思われる常陸肥前・豊後杵築島遠来の僧たちの供養塔が散在する。この地で命を落とされた行僧埋葬したのであろう。」

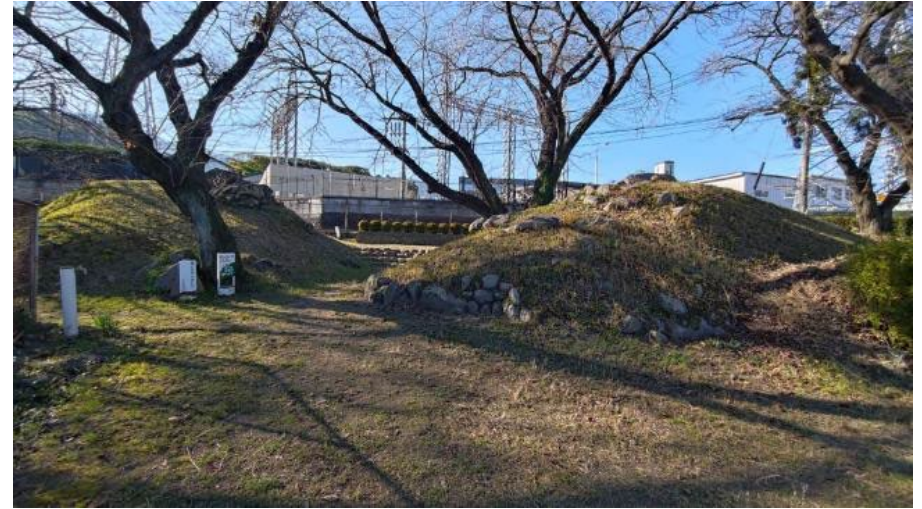
6 石垣八幡宮 第一の鳥居



7 別府石の石垣の道



8 実相寺古墳群



別府市の実相寺古墳群は 2017 年に国指定史跡となり、特に鷹塚古墳は大分県最大の石室を持つ最古・最大級の方墳です。九州では珍しい一辺約 30 メートルの大規模方墳で、6 世紀末の築造と考えられるそうです。この古墳内部の装飾には、「血の池地獄」の熱泥から採取された赤色顔料が使われていたことが判明しました(<https://onsen.mc.beppu-u.ac.jp/case.html?id=29>)。別府市域では古墳時代後期以降の遺跡になるとヒ素が含まれ始めるとのことで、このことから“赤湯泉”が噴出した、或いは発見されたのが 6 世紀前半以上の可能性が指摘されました。同成分の顔料を使う古墳が玖珠や日田にも見られ、古代における別府の重要性や中九州の歴史を探る手がかりとなっているそうです。

9 和菓子処「茶郎」水汲み場



和菓子処「茶郎」さんが管理されている水汲み場、地下 200m からの水とのことです。

10 曹源寺



宗派は臨済宗妙心寺派、社伝によると創建は平安初期の天元元年(978年)。当時は現在の所在地より北へ10町ほど離れた場所にあったとのこと。

寺は春木川の氾濫でしばしば被害を受けており、照湯も大きな被害を受けた嘉永5年(1852年)の洪水では、本門、地藏堂などお堂、門前大松3本などが流出したと記録されているそうです。

また、境内にはキリシタン塔(3基)が安置されているとのこと。

11 石垣八幡宮井戸碑と石垣の道



『別府の古い道』によると、八幡石垣神社の縁起では、平安時代の中頃、宇佐八幡神からの託宣で元宮が祭られ、建久 5 年(1194 年)に今の地へ。また『伊豫国風土記逸文』を引いて、石垣郷に朝見郷・竈門郷のように温泉が出ないのは、この郷の湯を道後に移したからであるとの記述があるとのことです。

『豊後風土記』に、赤湯は郡衙の西北、玖倍理湯は西とあるとの記載があること、ここから出土した遺物などより、古代の速水郡衙は八幡石垣神社の辺りにあったのではないかと推察されています。

12 石垣八幡宮



八幡石垣神社の元宮と言われる天満宮

13 前田温泉 (ハイキングでは通りませんが参考まで)



前田温泉の浴室の壁には、別府の風景をイメージした絵が描かれています。

前田温泉のネオンは、温泉を盛り上げようと、別府大学の学生が参加したテレビ局の企画で作成されたものとのことです。

14 JR 別府大学駅の海拔表示と公衆電話 (参考)

